



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月3日

上場会社名 株式会社よみうりランド 上場取引所 東
 コード番号 9671 URL http://www.yomiuriland.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上村 武志
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 経理部担当 (氏名) 関野 治彦 (TEL) 044-966-1134
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	14,035	8.2	2,323	36.3	3,039	28.2	2,331	57.7
27年3月期第3四半期	12,968	△1.2	1,704	△30.7	2,370	△22.3	1,478	△22.1

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 3,027百万円(60.1%) 27年3月期第3四半期 1,890百万円(△50.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	30.17	—
27年3月期第3四半期	19.10	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	66,666	24,161	36.2
27年3月期	61,454	21,521	35.0

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 24,161百万円 27年3月期 21,521百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
28年3月期	—	2.50	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,132	4.8	1,606	△29.5	2,496	△19.2	1,676	△5.2	21.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成28年2月3日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	28年3月期3Q	83,522,024株	27年3月期	83,522,024株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	6,226,852株	27年3月期	6,223,111株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	28年3月期3Q	77,298,308株	27年3月期3Q	77,389,876株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は経済情勢や天候等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部に弱さもみられましたが、緩やかな回復基調にありました。先行きにつきましては、雇用・所得環境の改善により、引き続き緩やかに回復していくことが期待されるものの、中国経済の悪化や米国の金利引き上げなどで、先行きは不透明感を増しています。当社グループの関連する業界に影響を及ぼす個人消費は、消費税率の引き上げを控え、力強さを欠いた状況にあります。

このような状況の下、当社は所有地の効率的な活用による事業の拡大とともに、独自の企画による他施設との差別化と、営業拠点間の連携による相乗効果を図ってまいりました。

公営競技部門の川崎競馬は、前年同四半期比2日減となる45日開催されました。重賞競走は6月の「関東オークス」や12月の「全日本2歳優駿」などが開催され盛り上がりを見せました。また、JRAの場外発売「ウインズ川崎」は、前年同四半期比1日増となる81日実施されました。ナイター競馬開催日には、馬場内芝生広場での「パーベキュー広場」実施などにより賑わいを見せました。施設面では、2号スタンド1階を全面新装し本年元日よりオープンいたしました。川崎競馬を代表する名馬の名を冠した「ロジータ・ホール」では、オリジナルクラフトビール「ロジータ」の販売を開始し好評を博しております。なお、2月18日にオープンを予定しております商業施設「マーケットスクエア川崎イースト」とともに、2号スタンド2階から4階のリニューアルを2月20日オープンの予定で進めており、ともに工事は順調に進んでおります。船橋競馬は、前年同四半期比1日減となる39日開催されました。6月からはナイター競馬「ハートビートナイター」がスタートし、新たな客層の開拓に寄与しております。また、5月にはビッグレース「かしわ記念」が開催され、同日に主催した恒例の「おうまフェス2015～親子であそぼ。～」では、多くのイベントを開催し好評を博しました。なお、JRAの場外発売「J-PLACE船橋」は前年同四半期同様39日実施されました。船橋オートレースは、前年同四半期比8日減となる45日開催されました。5月には恒例のGⅠ「黒潮杯」が開催され盛り上がりを見せました。競輪場外車券売場「サテライト船橋」は、前年同四半期同様273日実施されました。通期の開催日数につきましては、川崎競馬、船橋競馬、船橋オートレースとも前年と同数となる予定です。なお、船橋オートレースの施行自治体である千葉県及び船橋市より、本年3月末をもって船橋オートレース事業を廃止するとの発表がなされております。これを受け、オートレース場外車券売場および「サテライト船橋」を船橋競馬場駐車場内に開設するための調整を、関係者間で進めております。

ゴルフ部門の東京よみうりカントリークラブは、一昨年10月に使用を開始した耐暑性に優れた新ペントグリーンでの営業日数が増加したことや、数年来強化している外部営業の効果もあり、入場者は増加いたしました。12月に開催された「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は、人気選手の優勝で幕を閉じ、盛り上がりを見せました。また、9月にクラブハウスレストランにて開催した恒例のイベント「丘の上JAZZ in 東京よみうりカントリークラブ2015」は、予想を上回るお客様で賑わいました。よみうりゴルフ倶楽部は、多様な自主コンペを開催したことや、特別料金営業日の設定などにより、入場者は増加いたしました。施設面では、昨年4月にリニューアルした女性浴室やパウダールームなどが、女性プレーヤーから好評を博しております。また、遊園地のイベント「ほたるの宵」や「ジュエルミネーション」と連携した恒例のディナーイベントをクラブハウスのレストランにて開催し、多くのお客様で賑わいました。昨年10月に開場30周年を迎えた静岡よみうりカントリークラブは、4月から記念のオープンコンペや各種イベントなどを開催し、プレーヤーから好評を博してまいりました。10月18日の開場記念杯には前年を上回るプレーヤーが参加し盛り上がりを見せました。しかしながら、近隣ゴルフ場の割引施策の影響や、7月及び9月の台風によるキャンセルなどにより入場者は減少いたしました。千葉よみうりカントリークラブは、スクラッチカードイベント「スマイルウィーク」や、「初めて割」、「女子割」などの割引料金の適用など多数の施策により、近隣コースとの競争力の確保につとめたところ、4月及び7月の荒天などがあったものの、入場者は前年並みに推移いたしました。

遊園地部門の遊園地では、季節を通じて多彩なイベントを実施してまいりました。春のお花見遊園地「Dream Sakura 2015～僕らのハル!!」にはじまり、ゴールデンウィークの「全国ご当地大グルメ祭2015」、夏のほたる観賞イベント「ほたるの宵」や音楽グループGReeeeNプロデュースによる「よみUREeeeNランド」、全天候型多目的ホール日テレらんらんホールでの「ポリショイ・ステージサーカス2015」、秋はタツノコプロ完全プロデュースによる「Yomiuriland Halloween」などを開催し好評を博しました。そして、冬の風物詩であるイルミネーションイベント「ジュエルミネーション」は、今シーズンも世界的照明デザイナー石井幹子氏監修のもと、他施設に先駆け10月中旬より開幕いたしました。6シーズン目の今回は、LED電球を

100万球追加し、400万球の規模に拡大いたしました。国内屈指のイルミネーションイベントに、10月から12月までの各月ともに今世紀最高となる入園者が訪れました。特にクリスマスは、前年同日に達成した夜間入園者の最高記録を上回る入園者で大いに賑わいをみせました。なお、ジュエルミネーションの好調を受け、昨年に引き続き、最寄駅の京王よみうりランド駅に新宿発の下り特急・準特急列車の一部が期間限定で臨時停車いたしました。これらの結果、入園者は大幅に増加いたしました。なお、本年3月18日に、モノづくりが体感できる日本最大規模の新エリア「グッジョバ!!」をオープンいたします。約100億円を投じ、日本初となるスパイラルリフト型ジェットコースターや映像ゲーム機能付きボートライド、自分でデザインした車が運転できるレースゲームをはじめ、アトラクション15機種が一斉にオープンする予定となっております。夏のプールWAIは、清涼飲料水「キリンメッツ」とコラボレートしたびしょ濡れウォータゲーム「メッツブラッシュ」や、10トンを超える水量を誇る放水ショーとオリジナルダンスのコラボレーションショー「ダンスブラッシュ」、例年人気のおもちゃのアヒルレースなど、エンターテイメントプールとして多数のイベントを開催し、好評を博しました。また、プール更衣室をリニューアルし、お客様により快適な環境をご提供いたしました。これらの結果、8月下旬からの低気温などの影響があったものの、入場者は増加いたしました。温浴施設「丘の湯」は、様々なイベントを開催し好評を博しました。10月はジュエルミネーションの早期開幕で遊園地帰りのお客様が大幅に増えたことなどにより、4月の荒天などの影響があったものの入場者は前年並みに推移いたしました。なお、丘の湯プラザの中華レストラン「天安」では、遊園地と連携した「ほたるの宵 特別ディナープラン」や「ジュエルミネーション特別メニュー」など、季節ごとの特別メニューが好評を博しました。温浴施設「季乃彩（ときのいろどり）」は、朝風呂や、替り湯など多数のイベントを開催するなどした結果、入場者は増加いたしました。ゴルフガーデン（練習場）は、ゴールデンウィークなどに開催したイベントが好評を博したものの9月の台風の影響などにより、入場者は減少いたしました。親子向け屋内遊戯施設「キドキドよみうりランド店」は、日替りのイベントをより充実させるなど、リピーター獲得に努めました。また、遊園地内でキドキド体験会の開催や「ほたるの宵」とセットになったチケットを販売するなど、遊園地との連携を強化いたしました。これらの結果、入場者は増加いたしました。商業施設「グランツリー武蔵小杉」内に新店出した「あそびのせかいグランツリー武蔵小杉店」は、昨年11月に1周年を迎え、前年を上回る入場者で好調に推移しております。

以上の結果、総合レジャー事業の売上高は123億5千9百万円（前年同四半期比8.0%増）となりました。

また、不動産事業の売上高は、販売用宅地の分譲が増加したことなどにより、11億9千5百万円（同13.7%増）、サポートサービス事業の売上高は、前年同四半期は連結内部からの大型工事があったため、18億9千万円（同14.3%減）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は140億3千5百万円（前年同四半期比8.2%増）、営業利益は23億2千3百万円（同36.3%増）、経常利益は30億3千9百万円（同28.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は23億3千1百万円（同57.7%増）となりました。

（2）連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におきましては、遊園地部門において、冬季のイルミネーションイベント「ジュエルミネーション」の好調などによる売上高の増加により、通期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が予想を上回る見込みとなりました。

なお、連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

〈通期業績予想数値の修正〉

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	17,665	1,117	1,924	1,024	13円26銭
今回修正予想(B)	18,132	1,606	2,496	1,676	21円69銭
増減額(B-A)	467	488	571	651	—
増減率(%)	2.6	43.8	29.7	63.6	—
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	17,295	2,276	3,089	1,769	22円87銭

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,755,183	3,136,708
受取手形及び売掛金	1,350,193	1,022,964
たな卸資産	126,764	117,073
繰延税金資産	129,403	131,511
その他	551,270	1,390,959
貸倒引当金	△806	—
流動資産合計	5,912,009	5,799,216
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,526,270	19,073,547
土地	15,568,647	15,572,701
建設仮勘定	5,331,740	10,409,732
その他（純額）	1,724,159	1,554,145
有形固定資産合計	42,150,817	46,610,127
無形固定資産		
その他	95,462	92,033
無形固定資産合計	95,462	92,033
投資その他の資産		
投資有価証券	12,658,034	13,685,628
繰延税金資産	172,070	164,519
その他	465,894	314,808
投資その他の資産合計	13,295,999	14,164,957
固定資産合計	55,542,279	60,867,118
資産合計	61,454,288	66,666,335

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	603,905	547,496
短期借入金	1,570,000	2,310,000
1年内返済予定の長期借入金	—	115,401
未払法人税等	295,519	1,007,942
賞与引当金	124,885	32,848
その他	3,633,129	2,804,597
流動負債合計	6,227,439	6,818,286
固定負債		
長期借入金	6,000,000	7,884,599
繰延税金負債	2,629,533	2,810,901
退職給付に係る負債	508,497	555,513
長期預り金	24,170,146	24,056,375
その他	396,994	379,343
固定負債合計	33,705,171	35,686,732
負債合計	39,932,611	42,505,019
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,053,030	6,053,030
資本剰余金	4,730,552	4,730,631
利益剰余金	8,176,857	10,122,090
自己株式	△2,105,258	△2,106,895
株主資本合計	16,855,182	18,798,857
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,667,120	5,364,779
繰延ヘッジ損益	△625	△2,321
その他の包括利益累計額合計	4,666,494	5,362,458
純資産合計	21,521,676	24,161,315
負債純資産合計	61,454,288	66,666,335

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	12,968,081	14,035,642
売上原価	9,902,079	10,275,534
売上総利益	3,066,002	3,760,107
販売費及び一般管理費	1,361,421	1,436,507
営業利益	1,704,580	2,323,600
営業外収益		
受取配当金	214,930	192,876
建設発生土受入金	416,051	450,527
その他	53,311	101,769
営業外収益合計	684,294	745,173
営業外費用		
支払利息	16,300	27,360
その他	1,602	2,186
営業外費用合計	17,903	29,546
経常利益	2,370,971	3,039,226
特別利益		
固定資産売却益	—	100,966
和解清算益	—	396,384
その他	—	3,282
特別利益合計	—	500,634
特別損失		
固定資産除却損	137,327	59,927
災害による損失	6,769	—
特別損失合計	144,097	59,927
税金等調整前四半期純利益	2,226,873	3,479,933
法人税、住民税及び事業税	706,552	1,293,436
法人税等調整額	42,129	△145,229
法人税等合計	748,681	1,148,207
四半期純利益	1,478,191	2,331,726
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,478,191	2,331,726

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	1,478,191	2,331,726
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	413,319	697,658
繰延ヘッジ損益	△913	△1,695
その他の包括利益合計	412,406	695,963
四半期包括利益	1,890,597	3,027,689
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,890,597	3,027,689
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	総合レジャー 事業	不動産事業	サポート サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,434,733	1,049,139	484,208	12,968,081	—	12,968,081
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,254	2,295	1,722,002	1,732,552	△1,732,552	—
計	11,442,987	1,051,435	2,206,210	14,700,634	△1,732,552	12,968,081
セグメント利益	2,171,766	642,225	156,161	2,970,153	△1,265,573	1,704,580

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,265,573千円には、セグメント間取引消去△34,305千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,231,267千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	総合レジャー 事業	不動産事業	サポート サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,355,853	1,193,034	486,753	14,035,642	—	14,035,642
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,893	2,700	1,403,303	1,409,896	△1,409,896	—
計	12,359,746	1,195,734	1,890,057	15,445,539	△1,409,896	14,035,642
セグメント利益	2,748,864	766,809	111,699	3,627,373	△1,303,773	2,323,600

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,303,773千円には、セグメント間取引消去12,207千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,315,980千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。